



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月〜3月)

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

公益財団法人友愛 活動内容紹介

定款に掲げた目的を遂行するための各事業

2025年度も発展・継続を目指す

友愛ユニオンの参加・活動も活発に

2025年度がスタートした。今年度も友愛の理念にそった様々な活動の展開が予定されている。改めて機関紙『友愛』の読者の皆さま、公益財団法人友愛をご支援くださっている皆さまに、更なるご理解とご協力を賜れるよう友愛の活動をご紹介します。各事業の現状はもとより、今まで行ってきた事業の詳細は機関紙『友愛』及び友愛ホームページ上に掲載されている。ホームページでは、過去に発行された機関紙の全てが掲載されご覧いただける。是非ホームページへのアクセスを。

定款にある目的

―定款第3条 この法人は、前文(文末掲載)の理念に基づき、自立と共生の友愛の理念のもとに、国内外の青年や社会人の交流を深め友愛の理念を次世代に継承、発展させる人材を育成し、国際相互理解を深めもって世界平和に資することを目的とする。―

公益財団法人友愛の実施している事業は、この目的に従って、全ての事業は展開、実施されている。併せて、公益財団法人としての守るべき決まり、範囲を遵守しつつ、理事会において慎重な議論を重ね実施されている。

事業の内容

実施されている事業は全て公益事業(公)として、内閣府に申請、認定された事業である

細かく分けると、(1)国際交流事業／①OEJABの受入・OEJABへの派遣。②ミャンマー農業指導者育成事業 (2)友愛小論文コンテスト(表彰事業)(3)普及啓発活動①機関紙『友愛』の発行②ホームページの開示③勉強会開催④資料室公開

現在これらの事業は順調に実施され、2024年度には新たな展開もあり、友愛ユニオンの積極的な参加も含めて、今後の展開・発展が期待される。

新たな発展

一、OEJAB受入事業において、友愛ユニオン有志がアテンドを務めた。(下段写真参照)若者同士の交流による平和への関心、日本文化への理解が深まった出来事である。また、この折来日したOEJABからの派

遣員が、後日友愛OEJAB派遣員を、ウィーンで、ザルツブルグでアテンドしてくださったという状況も、(下段写真参照)若者同士の交流の深まりを象徴している。

二、友愛小論文コンテストを韓国にて実施。友愛ユニオンで構成される若者代表団は、現地の大学でテーブルデスカッションを開催し、闊達な意見交換を行った。(下段写真参照)一方通行の情報伝達ではない、新たな友愛理念の伝達がなされている。

三、ミャンマー農業指導者支援事業は、ミャンマー国内の状況が不安定なこともあり、従来のような指導者を招聘し、日本の農業を学んでもらう機会を作ることには難しくなった。そこで過去に来日した研修員の意見をまとめ、土壌改良に役立つリーフレットを作り、多

事に答申し、確実性、可能性などについても議論を重ねている。

前文抜粋…人間の尊厳を護るべく、自由と平等の均衡を図る理念を友愛に求め、鳩山一郎はその友愛の理念を「相互尊重」、「相互理解」、「相互扶助」と説き、国民全体への普及に努めた。この財団は、友愛の理念を理解し、継承、発展させることができる人材の育成を図り、もって世界平和に資することを目的として創設するものである。



韓国・全州大学校における交流



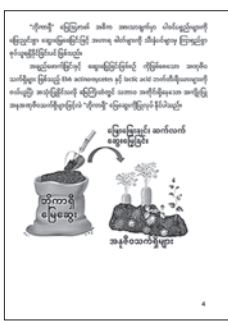
OEJAB 受入時の様子



OEJAB 訪問時/岩岡優太さん撮影



ミャンマー語の説明入りリーフレット(抜粋)



友愛OEJAB派遣員募集開始

ご応募お待ちしております!

詳しくはHPをご覧ください



HP用QR



オーストリアへの派遣学生募集



公益財団法人友愛の公益事業として、2025年度の派遣員を大学生(2年生以上・大学院生含む)の中から募ります。ウィーンでの10日間、多くのことを学習できる絶好の機会です。

要項は下記の通りです。 ※現地受入団体 OEJAB エヤップについては OEJAB

記

- 期 間 2025年3月5日(木)〜3月15日(日)予定
※実際の状況等により、実施日程が変更される場合があります
- 参加費用 80,000円(往復航空券代金・現地滞在費用・旅行保険代金含む)
※宿泊はエヤップの所有する宿泊施設(ホテル等) 朝食付き
親民経済事業等エヤップ運営施設訪問・在所者との交流
国連機関等訪問・現地観光 等
- 内 容
活動内容の詳細はQRから友愛HP/活動内容に掲載されています
- 参加条件 友愛HPの応募要項参照(応募者は必読の事)
- 応募方法 公益財団法人友愛HPより申込書をダウンロードし、必要事項記入(写真貼付)の上、①申込書・②推薦状・③作文・④成績表
①②③④を友愛事務局へ郵送すること ※詳細は応募要項参照
- 締 切 2025年9月16日(木)必着 ※応募書類は返却いたしません
- 選考方法 有識者等で構成される「選考委員会」にて選考
一次選考/書類選考(男女計12名程度)
二次選考/面接による選考(男女計6名以内)
面接実施日/2025年10月25日(土)(一次選考の結果通知に集合時間等記載)
※面接は公益財団法人友愛事務局で行います
面接時の交通費・宿泊費(必要な場合)は、友愛が負担します
8) 発 表 2025年10月中旬一次選考結果発表 ※各人に通知します(郵送)
2025年11月中旬二次選考結果発表 ※各人に通知します(郵送)



公益財団法人友愛 〒112-0002 文京区小石川1-10-13 TEL 03-5684-3188
https://yuai-love.com

友愛時評

▼今年のゴールデンウィークは「飛び石」と物価高のため近場で過ごす人が多かったという。人混みの嫌いな筆者は、例年この時期の国内旅行を極力避けるのだが、今年は家族からのリクエストに抗えず、茨城県を回った。▼水戸で一泊し、朝早くレンタカーを借りて「国営ひたち海浜公園」に向かったが、既に駐車場は長蛇の列である。見頃のネモフィラ畑が連日のように全国ニュースで報道されていたのだから人気も当然、首都圏や東北北以外のナンバープレートもちらほら混じっていた。ネモフィラの淡い青絨毯に染まった「みはらしの丘」は確かに壮観だったが、数珠つなぎの観光客も多様性に富んでいて面白かった。▼頂上付近にいたカップルが「一年草っていうことは一年中咲いているってこと?」と話しているのが耳に入り「あら……」と思ったが、北米産の一年草がこれほど植えてあるのも不思議な話である。▼遅まきながら調べると、この公園の場所は、戦前は陸軍の水戸東飛行場、戦後には米軍に接収され「水戸対地射撃場」となり米空軍の演習に使われていた。一九七三年に返還されるまでに、数百件の事故が起き、地元住民に死者も出たという。射撃場の標的となっていた小高い丘は、無数の不発弾の処理と造成によって「みはらしの丘」に生まれ変わり、春はネモフィラ、秋はコキアが交互に植えられている。▼戦前には特攻隊が養成され、戦後には朝鮮戦争やベトナム戦争に赴く米軍の訓練が行われた地での麗らかな光景に、海に向こうの戦争が終わって花が咲く日を願った。(ヒゲ)

2024年度OEJAB派遣員報告書

個性溢れる六名の派遣員が出会ったものは

OEJABから昨年来日のメンバーもアテンドに参加・新たな交流が実現 6名の絆構築・感動の初体験・様々に綴る報告書と写真

3月1日(土)2024年度のOEJAB派遣員が羽田を出発した。3月10日(月)元気に帰国した彼等が、それぞれの体験を報告書として纏めてくれた。写真も彼等自身が撮し、キャプションを付けた。今回の6名が綴るオーストリアの旅を皆さまにご報告、ご紹介いたします。現地では昨年OEJABからの派遣員として来日したメンバーが、案内役を務めてくださるなど、新たな交流のかたちも生まれました。(掲載は五十音順・キャプションの*印は編集部註)

経験と対話を重ねて

岩岡 優太

千葉大学医学部5年

ウィーンに到着して最初の

の食事は、皆とのカフェでの昼食でした。カフェと言ったものの、天井が高く広々とした、どちらかというとホーエンザルツブルグ城にて。男子はこの後、川で水切りをしました *写真左端筆者

レストランと呼ぶに相応しい店で、私は初めてのヨーロッパでの食事に浮かれた。なすだったのを覚えていいます。

もこの旅で、同期の6人を始めとして、専攻も背景も違った多くの人との交流を重ねました。この派遣において、OEJABや国連での様々な体験は勿論学びが大きいものでした。しかし

さて、今回の主訪問先であるOEJABは、老人ホームや学生寮、ホテル、就労支援学校の主に4つの事業を運営しており、それぞれの施設で行われている手厚い福祉事業や、団体として行える一つの包括的なケアのシステムを学ぶ事が出来ました。EUからの支援や学生寮事業での利益を他の赤字事業に補填することで

寮内には格安のジムやプレイルーム、体育館もありました

この旅の真価だったと感じています。

4つの事業の運営を続けられる様で、複数の事業を並行して行う事で質の高い福祉を実現することが出来るというモデルになっていることを伺いました。各事業のもたらす相互作用は、経営面だけではありません。学生寮はただの住居の役割を超えて、ドイツ語や情報の学習、またはサッカークームなどのコミュニティ作りによって入居する若者の教育レベルと絆を深めていきます。そして、そこで育まれた若者の絆が続き、寮生たちの中には将来再び仲間と共にOEJABの老人ホームへの入居を希望する人も居るそうです。OEJ

ABという一つの団体が、生涯に渡って包括的な福祉を提供する仕組みに感銘を受けました。今後の日本での医療と福祉について考える上での一つのヒントを得られたように思います。

他にも、国連施設や日本政府代表団への訪問、またザルツブルグでの川沿いで遊んだことなど忘れられない経験がたくさんさせて頂きました。さらに、アテンドしてくれたニックや、毎日私たちが案内してくれたウィーンの皆のお陰で何倍も充実した旅になりました。OEJAB、友愛の皆様を始め、関わってくださったすべての方々に、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございました。

に恵まれた今回のオーストリア派遣は、かけがえのないものになりました。一緒に行った派遣員の5人に加え、昨年来日したオーストリアの学生たち、OEJABの寮・老人ホームの職員さんや入居者の方々、連邦首相府の人々など、10日間の出会いを挙げ出すときりがありません。

さて、私は、人との出会いが重要なのは、人間の想像力に限界があるからだと思っています。大体の情報がインターネットで得られるとはいえ、画面から想像できる範囲は非常に限られたものでしょう。実際、OEJABの施設など様々なところへも、ガラス細工に夢中。他に自転車整備や機械工などの実務的な技能訓練を受けられます *左端筆者

や連邦首相府などで、様々な側面から移民の社会統合に取り組み人と出会う中で、逆に、日本の移民問題に対する問題意識が強まりました。日本にも外国人労働者が増えているものの、移民の社会統合を社会全体の問題だとする認識は広まっていないように思います。OEJABの本部や連邦首相府などで繰り返し聞いた話に、「移民の社会統合を進めるのは、移民のためだけではなく、社会全体のためである」というものがあります。外国人に税金を使うことを拒否する排外的な言説が強まる中ではあります。目の前の問題から目を逸らすことなく、現実的な対応を考える必要があると再認識しました。

OEJAB派遣における出会い

尾田 夏野

京都大学総合人文学部3年

私にとって、旅先で最も印象に残るものは、人との出会いです。多くの出会いとともに豪華なホテルの朝ごはん。OEJABの寮が一時的にホテルとして使われていました

ガララス細工に夢中。他に自転車整備や機械工などの実務的な技能訓練を受けられます *左端筆者

これも気になったけど普通のUNOを購入、電車ですぐにやりました

最後になりますが、学生であり社会経験やスキルの乏しい自分に友愛やOEJABなどが機会をくださったのは、将来私たちが経験を社会に役立てる力を持っているからだと思っています。今回の派遣中も、OEJABの職員や国連のインターン生など、自分と年齢の近い人が活躍しているのを見て、私も社会に貢献していきたいと刺激を受けました。様々な機会をくださった



ホイリゲと呼ばれる伝統的なワインバル。白ワインを炭酸で割る飲み方を覚えました



国会議事堂内にて。民主主義の象徴としてギリシア神殿の様式を取り入れています



ホットドックがビールと無敵の相性で、美味しすぎて感動している表情



北緯48度のウィーンの街を太陽が美しい角度から照らしていました

者との絆が続き、寮生たちの中には将来再び仲間と共にOEJABの老人ホームへの入居を希望する人も居るそうです。OEJ



滞在中に、反極右政党のデモと国際女性デーのデモに行き合いました(この写真は後者)



シュテファン大聖堂の屋上から見た、ウィーンの街並み。また訪れたい場所です



最終日はザルツブルグの川沿いで、少しお昼寝をしました。最高の時間でした！



「オーストリアにカンガルーはいません」と書かれたバッグ(笑)



国連の前で一枚 *筆者:文章から伺える部分克服、既に強さを身につけています



サラエボ事件の際にオーストリア皇太子が実際に身に付けていた服。弾痕が見える



オーストリアの伝統的なバー。肉の塩加減が絶妙で、今回の旅で最も美味であった



特別養護老人ホームの中には、教会も作られています

た友愛と、関わってくださった全ての方々に感謝しつつ、社会に恩返しできるように励んでいきたいです。.....

心に据える「錨ーイカリ」が築かれた、オーストリアでの経験

木島 優美

東京科学大学医学部6年

オーストリアにて仲間とともに過ごした濃密な10日間は、多くの視座と出会いを得て、自分の志に火が灯る時間となりました。特に印象に残っている経験を2つご紹介します。

第一は、OEJABの施設訪問(難民支援施設や若者向けの職業訓練校BFP・特別養護老人ホーム)です。中でも、BFPに来る生徒の背景を伺った際、心

理的・社会的問題、いじめ被害の経験、親の薬物やアルコール問題などさまざまな生きづらさが挙がった中で、真つ先に「移民・難民問題」が出てきたことが印象的で、人口の約1/4が移民の背景を持つオーストリアならではの現象だと感じました。ドイツ語(オーストリアの公用語)の授業に参加させていただいた際には、生徒の方々が明るく楽しそうにドイツ語を覚えてくださり、OEJABプログラムがきつと生徒に安心感や自尊心をもたらしていることを実感しました。また、幹部の方々に「日本では福祉職の人手不足が問題である」ことを伝えると、オーストリアでも同様の問題があり、OEJABでは老人ホーム等での移民の採用を解決策の一つとして取

り入れていると伺いました。移民・難民支援と福祉人材不足の解決が地続きとなっているJABのアプローチに感銘を受けると同時に、外国人労働者が増えていく日本においても、移民・難民支援は人手不足という課題を照らす希望になり得ると感じました。

次に、国連機関への訪問では、職員やインターンの方々との出会いが、自分の常識を大きく覆す経験となりました。正直、訪問前は国連という存在は自分から遠く、キャリアとして意識することはほとんどありませんでした。しかし、ブラジル出身で9か国語を話す20代の職員の方(なんと日本語も話せる方でした)や、アジア出身でインターンに励む同世代の方と出会い、圧倒されながらも、こうした方々とともに世界の課題解決に向き合える魅力

派遣があと三年早ければ...

佐々木 太一

北海道大学大学院2年

私はこれまでなんともつたない大学生活を送ってきたのか。今回のオーストリアの旅ではそれをひしひしと実感した。

私が派遣前に執筆したOEJAB派遣への抱負では、優秀な仲間たちと充実した知識の交換を期待するといった内容を書いた。しかし、この目標はいい意味で裏切られることになる。

を強く感じました。本派遣のおかげで、「ウィーンにいつか国連職員として戻ってきたい」という新たな野望が芽生えました。

このような素晴らしい機会をくださった公益財団法人友愛の皆様、現地にてアテンドし続けてくださったニック、そして派遣中に出会った方々に、感謝の気持ちをこめて申し上げます。ウィーンで理想の在り方に出会ったこの経験を「船のいかり」のように心に下ろし、波に揺られそうなきときには立ち戻りながら、「一人ひとり夢に向かつて、これからも進み続けたいと思います」.....

なぜなら、私が他のメンバーに伝えた情報に比べ、私が他のメンバーから教えられた情報の方が圧倒的に多かったのである。

まず最も顕著な例として、圧倒的にオーストリア並びにヨーロッパに関する知識量が違った。他のメンバーは、私と同様に研究対象がオーストリアでないにも関わらず、オーストリアの歴史や建築物の建築方法、画家の流派など様々な知識をもっていた。年の差はあまりないにもかかわらず教養の差がはつきりとした瞬間だった。また、他のメンバーから学んだのは知識だけではない。勉強の取り組み方といった各人の物事に対する考え方も深く印象に残っている。例とし

て語学学習を挙げるが、私が英語を学んだ際のモチベーションは大学受験であったり、TOEICのスコアを上げるといったものであったりした。一方、彼女ら女らのモチベーションは、自分が学びたいことがある。そのために英語(ないしは他の言語)が必要であったからというものである。この考え方が理解できれば、彼女ら彼女らが英語のみならず第二外国語を流暢に話していることにも納得がいく。移動中のわずかな時間でも語学学習をするその姿勢は、元はと言えばすべての自分の興味から来ているものであるのだろう。

私は今回の旅で、自身の勉強不足と考え方の甘さを実感した。本音を言えば、モーツァルトカフェで食べたザッハトルテ。ホイップと一緒に食べると一層美味しい

もっと早く派遣に行っていた意識を大学生の間にもっておきたかった。しかし、この文章を執筆している今はまさに社会人になったばかりである。当然、今後大學生ほどの時間はとれないだろう。しかし、今の私にはあの時になかったモチベーションがある。他の友愛ユニオンメンバーに追いつきたい、同じ土俵に立ちたい。このことを忘れずに社会人になっても学びを続けていきたい。

最後に、一緒に派遣に行

新しい発見に満ち溢れたオーストリアでの10日間

須黒 正也

筑波大学人文・文化学科4年

こんにちは、今回のプログラムでは団長を務めさせていただきました。須黒正也と申します。とはいえ、団長といっても名ばかりで、出国から帰国・解散ま

での10日間を通して、メンバーの皆さんに支えられ、時に支え合い、かけがえのない信頼関係を築くことができました。

皆さんが持ち前の機転と豊富な知識を活かし、第一線で働く職員の方々に對しても鋭い質問を投げかける姿を見て、改めて多くの学びを得ました。海外では心

理的な余裕が無く、私が見る余裕があり、私の精神的な支柱でした。本当にありがとうございました。この人間関係は私の人生にとって大きな財産です。

特に私たちを引率しサポートしてくださったニックさんには、感謝の気持ちでいっぱいです。長いフライトと時差、満載な予定で私たちが疲れている中、通訳や案内をしてくださったニックさんは大変だったと思



います。



エヤップ施設にてウクライナ難民の女性から貴重なお話を聞かせていただきました



最終日、空港まで見送りに来てくれたニックさんと。また逢う日まで
*写真左筆者



お気に入りの一枚カメラマンの腕が素晴らしい *撮影者は尾田夏野さん



国会議事堂のテラスから *写真左端は昨年来日したグシールさん。アテンドしてくださった



*写真左端は昨年来日のヤナさんとボスナクさん（右端）最高の交流が生まれている



エヤップの職業訓練場での一枚。それぞれが夢中になって。個性が表れますね

友愛から共に派遣された仲間たちとの出会いである。皆が穏やかな性格で私個人が将来何をできるのかをよく考える、大変貴重な時間でした。この経験を次の派遣生にも伝えられるように、今後とも友愛の活動を通して還元できることを願っています。

第一に言及したいのは、

短いウィーン滞在中で、私が経験した素晴らしい出会いの数々は、原稿用紙213枚分では語りきれないほどに濃密で充実したものだった。

東京大学文学部4年

1週間という客観的には短いウィーン滞在中で、私が経験した素晴らしい出会いの数々は、原稿用紙213枚分では語りきれないほどに濃密で充実したものだった。

短いウィーン滞在中で、私が経験した素晴らしい出会いの数々は、原稿用紙213枚分では語りきれないほどに濃密で充実したものだった。

短いウィーン滞在中で、私が経験した素晴らしい出会いの数々は、原稿用紙213枚分では語りきれないほどに濃密で充実したものだった。

短いウィーン滞在中で、私が経験した素晴らしい出会いの数々は、原稿用紙213枚分では語りきれないほどに濃密で充実したものだった。

短いウィーン滞在中で、私が経験した素晴らしい出会いの数々は、原稿用紙213枚分では語りきれないほどに濃密で充実したものだった。

短いウィーン滞在中で、私が経験した素晴らしい出会いの数々は、原稿用紙213枚分では語りきれないほどに濃密で充実したものだった。

短いウィーン滞在中で、私が経験した素晴らしい出会いの数々は、原稿用紙213枚分では語りきれないほどに濃密で充実したものだった。



O E J A Bの居住施設にあるゲームルームにて、日本のソフトパワーを感じる



高齢者施設にて、おばあさまが友愛手拭いを早速巻いてくれました



薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。



フライト疲れのなか到着した中央駅で初めて見たゴミ箱はO E J A B色でした*赤紺黒黄



シニツツエルは必ずしも揚げていなくても定義を満たしているらしい



V I Cにて派遣生集合写真。とても素敵な環境で、将来ここで働きたいと思いました



ここに掲載した報告書・写真は全て公益財団法人友愛のホームページでご覧いただけます。ホームページでは、機関紙に掲載以外の写真も含め、全てカラーでご覧いただけます。
*スマートフォンは左のQRコードから。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

薄いステーキのようだった。ただ肉の種類は紛れもなく、揚げたシニツツエルと同様に子牛の下部ヒレ肉である。帰国してから1ヶ月近く経った今でも、あの味と食感は忘れられない。必ずやあの地に舞い戻り、再び味わう決心をした。これらの出会いの全てが、まだ若い私の感性にとって文字通り掛け替えのないものであり、同時にこれらは私の中に僅かに萌芽しているばかりの友愛精神を大きく成長させてくれた。

◆桜の花が終わり、木々が新芽を吹きました。そして一週間も経たぬ内に、木々は緑に覆われ素敵な緑陰を創り出しました。スゴイ！と思ったのですが、直径3cmの葉が1cm育つと、面積は三倍近くも広がるのです。その葉が一本の木に平均1万枚としたら……。何て事を考え、思いついた自分を誉めています。幸いな事に、我が家の近所は練馬区立公園、和光市立公園、自衛隊の駐屯地、そして近くを黒目川が流れ、緑に事欠かない環境です。桜花も良いけど、様々な木々の新緑はまた格別です。時々色を変える小さな山々に囲まれて育った私には、緑そのものが故郷です。（も）



2025年度年会費納入のお願い

今回の機関紙には年会費の振り込み用紙を同封しております。これは2025年度分会費の振込用紙です。（2026年の税額控除の対象）公益財団法人友愛は皆さまからの会費（寄付）で運営されています。ご協力をお願い申し上げます。

*税額控除のための領収書は2026年1月に郵送いたします。
*ご不明な点は事務局までお問い合わせください。